

ONKYO.

第3四半期累計 営業損益黒字化について

～平成29年3月期第3四半期決算ハイライト～

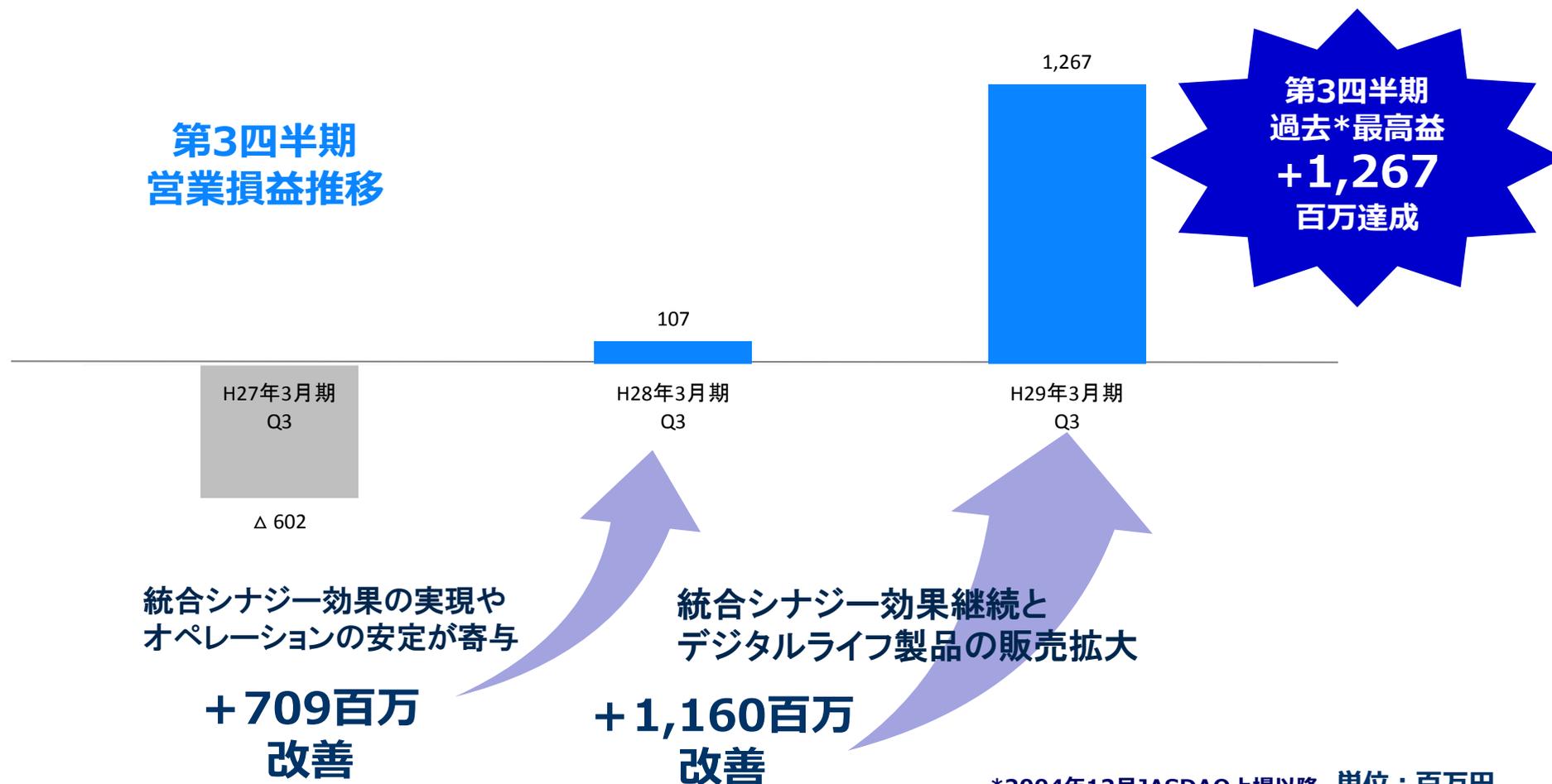
2017/2/10
オンキヨー株式会社

2017年3月期 第3四半期トピックス

- 第3四半期においてJASDAQ上場以来最高の営業利益
 - 第3四半期連結累計期間で営業黒字転換を実現
 - 全セグメントにおいて第3四半期黒字達成
- ⇒ 確実な回復路線へ

2017年3月期 Q3営業損益について

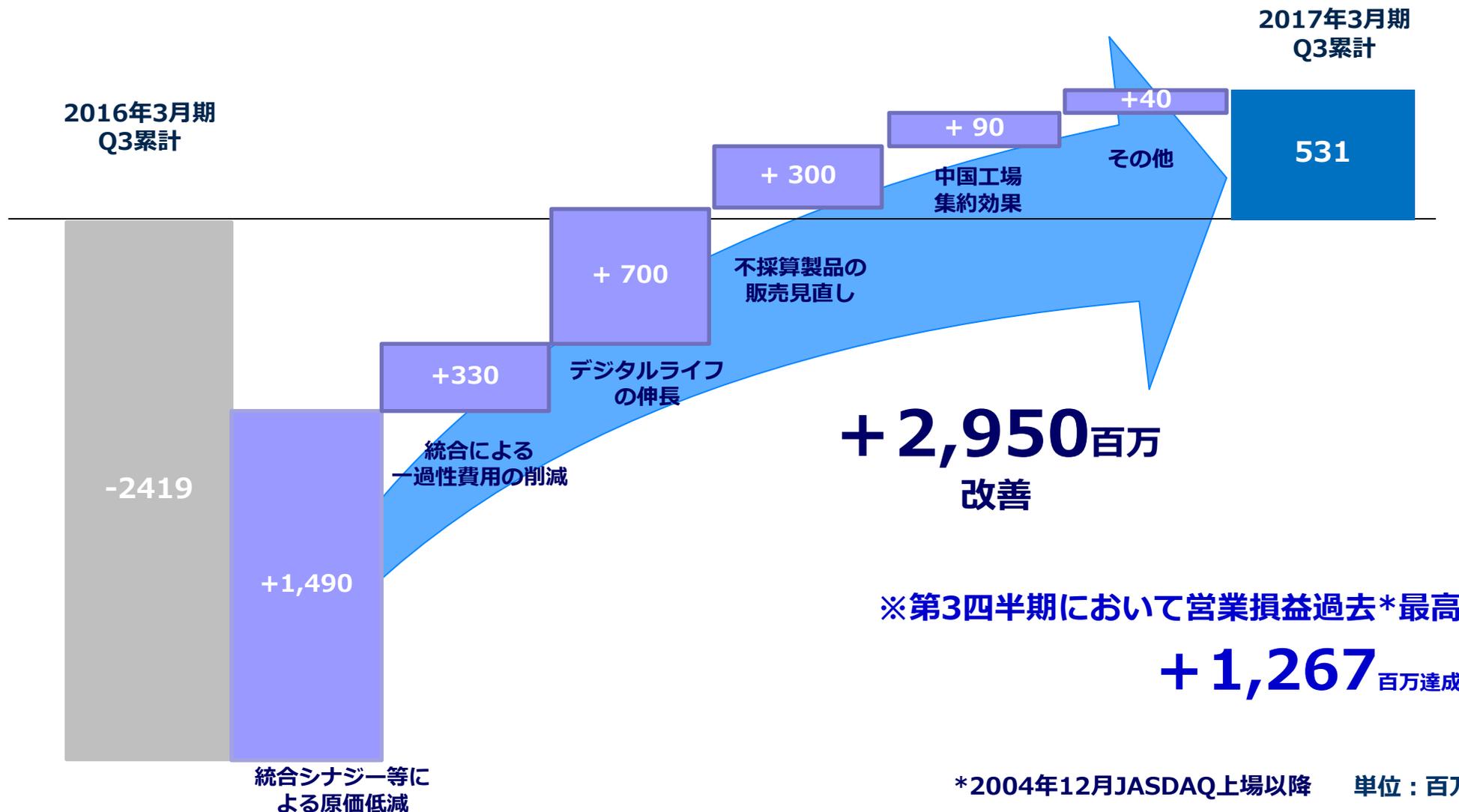
統合シナジー効果が継続し業績改善に大きく寄与
第3四半期においてJASDAQ上場以来最高の営業利益達成



*2004年12月JASDAQ上場以降 単位：百万円

2017年3月期 Q3累計営業損益黒字化 増益要因

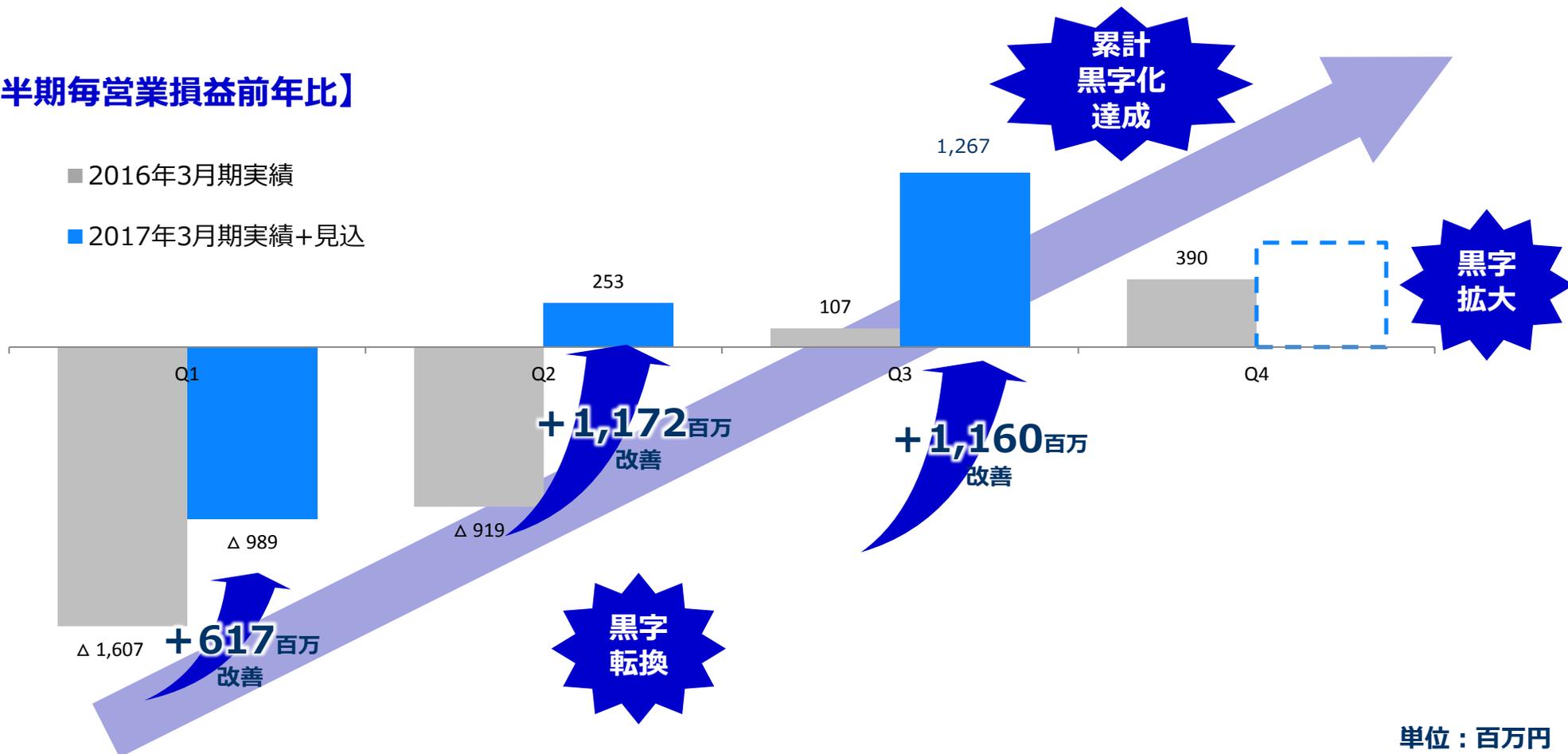
AV機器での統合シナジー効果実現やデジタルライフ製品の販売拡大



四半期毎営業損益推移について

当第3四半期連結累計期間で営業黒字化達成
通期において計画通り営業利益10億円を見込む

【四半期毎営業損益前年比】



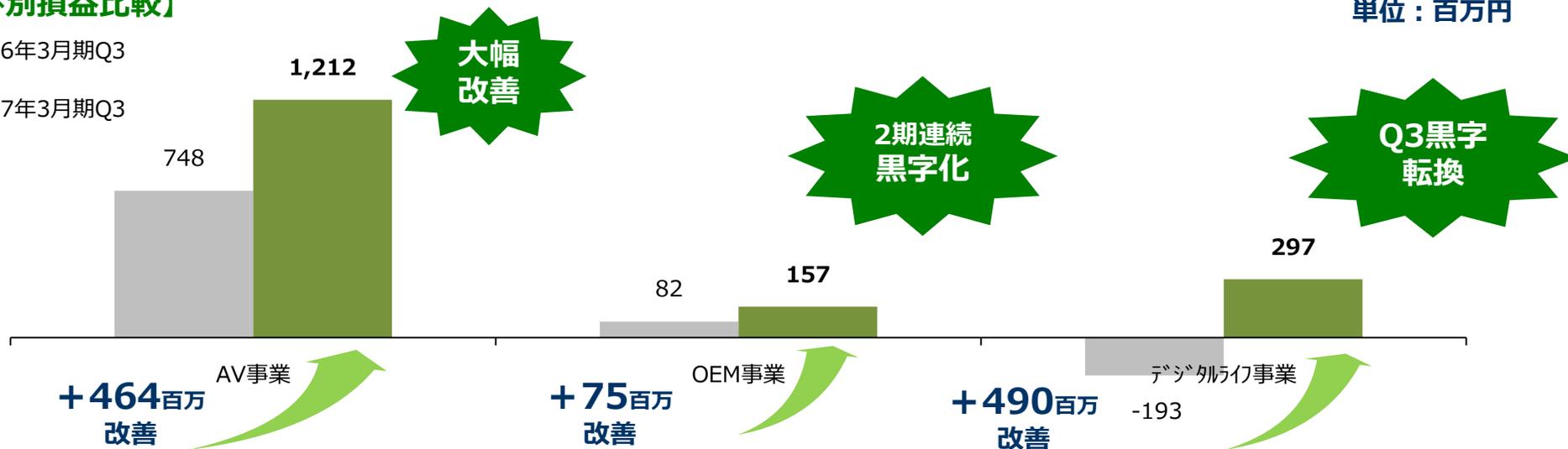
単位：百万円

全セグメント Q3黒字化と主たる要因

【セグメント別損益比較】

- 2016年3月期Q3
- 2017年3月期Q3

単位：百万円



AV事業において大幅に損益改善、デジタルライフ事業の販売拡大で黒字化継続中

- AV事業** 統合シナジー効果、不採算製品の積極的な見直しの継続に加え、北米におけるAVレシーバー、CDチェンジャー、欧州におけるミニコンポの販売好調。円高ドル安による製品原価低減により**損益の大幅改善**
- OEM事業** 車載用スピーカーは堅調に推移。新素材振動板を活用した次世代ヘッドホン開発への先行投資実施するも、中国内工場の集約により生産効率改善で**第3四半期2期連続黒字化**
- デジタルライフ事業** DAPの新製品DP-X1A、XDP-300Rの販売が伸長、ヘッドホンやイヤホンなどラインナップ強化による販売拡大、電話機の新製品も販売好調により、前四半期に続き**第3四半期黒字化および前期から黒字転換を実現**

更なる成長に向けた取り組みについて（AV事業）

オーディオ

INTECシリーズが販売好調 ネットワーク対応機器も注目



- 単品オーディオの性能と最新の機能をコンパクトサイズに凝縮した“INTEC”シリーズの販売が好調に推移
 - e-onkyo musicとの連携*も見据えハイレゾ音源を簡単に楽しめる、ネットワークオーディオ機能を強化したCDレシーバー
- *2017年3月e-onkyo musicダウンローダーリリース予定（アップデート対応）

AV

Dolby Atmos®、DTS:X™対応製品好調 さらにマルチルーム対応製品の開発へ



- Dolby Atmos®とDTS:X™の三次元音場再生対応製品が好調。特にFS-EB70は高価格帯バーシステムながら国内外とも高評価
- ハウスメーカーと提携したインストールビジネスでもDolby Atmos®システムが好調
- 次世代マルチルームシステムの製品化が進行中

更なる成長に向けた取り組みについて（OEM事業）

インドUNO MINDA GROUP など他社協業による事業拡大



- 自動車部品のリーディングカンパニー：
UNO MINDA GROUPと合弁契約締結
合弁会社、スピーカー生産工場の設立へ
※2017年春、生産開始予定
- シャープ製液晶テレビ、東芝製ノートPCな
ど他社メーカー製品で当社製スピーカーク
ユニットとサウンド設計を採用

注目素材セルロースナノファイバーやマグネ シウム採用の振動板、ヘッドホンドライバ ーを自社ブランドから製品化



CNF振動板採用：SC-3

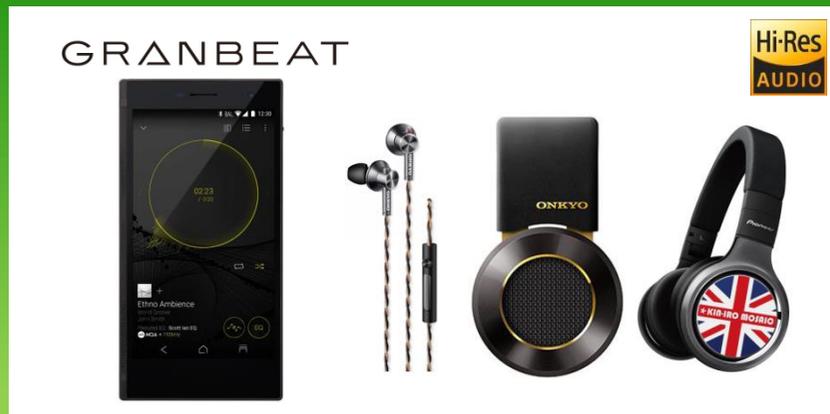


マグネシウム振動板

- 注目を集める新素材セルロースナノファイバー
（CNF）を採用した振動板を世界初で自社ブラ
ンドのスピーカーシステムで製品化
- マグネシウム、100% CNF採用のヘッドホン
ドライバーを世界初で開発、自社ブランドはじ
め製品化に向け進行中

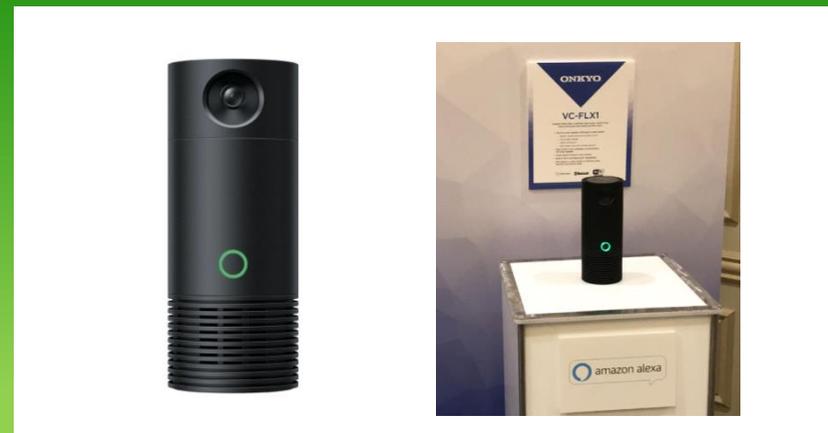
更なる成長に向けた取り組みについて（デジタルライフ事業）

ハイレゾスマートフォンや DAPを中心としたポータブル製品の拡充



- スマートフォンでは世界初となるフルバランス回路搭載ハイレゾスマートフォンの開発
- ハイレゾ対応、無線対応などイヤホン/ヘッドホンのラインナップを強化、市場で高評価獲得。E700Mは価格.comプロダクトアワードのオーディオ部門大賞を受賞
- 各種コラボレーションモデルも好調

IoT、AIに対応する 次世代カテゴリ製品の開発



- 「Amazon Alexa音声サービス」に対応したスマートスピーカー VC-FLX1を米国の見本市CES2017に参考出品
- IoT対応はじめ、SoundHound社との協業による音声認識などのAI対応製品にいち早く取り組み、高品位な新しい音楽体験を提案する製品開発に着手

オンキヨーの目指すエコシステム

IoT、AI時代を見据えた次世代製品の開発や協業を通じて、
今年度販売予定のスマートフォンやDAPを中心に新しいライフスタイルを提供



ONKYO®

本資料に記載されている業績や見込、将来に関する記述等は資料作成時点において入手可能な当社およびその関係会社の情報に基づいて予測し得る範囲内で当社が作成したものであります。これらの記述はリスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を保証いたしません。実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。本資料における第3四半期、第4四半期の見込値は、当該四半期累計期間値または通期業績見込値から前四半期累計期間値を差し引いて算出したものであるため、実際の第3四半期、第4四半期の値と誤差が生じている場合がありますが、その差額は百万円未満です。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。